

5 研究の進め方

《第1年次～平成9年度～》

- (1) 研究主題の設定、研究の全体構想作成、校内研究体制の確立
- (2) 研究仮説をもとにした、各教科・各部会の具体的研究推進計画作成
- (3) 研究実践（単元プラン・共同参観授業・学力向上タイム・1分間スピーチ・NRT・学習に関する調査など）
- (4) 1年次の成果と課題のまとめ

《第2年次～平成10年度》

- (1) 第1年次の成果と課題の確認、校内研究体制の整備、2年次の具体的研究推進計画作成
- (2) 2つの研究の柱に基づく実践（自己評価表・基礎学力確認テストを加えて）
- (3) 研究のまとめ

II 研究の実際

《第1年次（平成9年度）》

1 授業による実践

- (1) 単元プランの整備・改善

ア 教科自校プラン 《平成9年度国語科自校プラン》 ⇨
イ 教科単元プラン

基礎学力向上に結びつく授業改善を実現するためには、日々の授業実践を確認することができる週案の改善が必要である。この視点から、教科自校プランを週案段階までおろした「単元プラン」を作成することで、毎時間の基礎学力を身に付けさせる上でのポイントを単元の中で確認できるよう、次に示した様式のプランを1年を通じて作成し、授業改善に役立ててきた。

- (2) 共同参観授業の実施

ア 実施期日

- 平成 9年10月 2日（木）
2年国語科 菅野 喜絵 教諭
- 平成10年 1月22日（木）
2年英語科 河原 俊 教諭

イ 実施方法

- ・ 授業研究部が中心に運営を行った。
（共同参観授業の企画・運営、事前・事後研修会の企画・運営など）
- 【事前研究会】（授業研究部・研修主任・授業者）
- ・ 指導案の検討。

平成9年度 三和中学校基礎学力向上国語科自校プラン

基礎学力の向上を図る授業改善の工夫		
各学年の課題 飛躍（NRTテスト分析結果）		
第一学年	第二学年	第三学年
・ 3、4の成績の生徒が多い。しかし、1、2の成績にも5人あり、対策が必要である。	・ 2、3の成績の生徒が多い。継続した黒字、黒字率増が必要である。	・ 2、3の成績の生徒が多い。継続した黒字率増、黒字率増が必要である。

基礎学力の向上を図る授業改善の工夫		
各学年の課題 飛躍		
第一学年	第二学年	第三学年
・ 下位の生徒にも目を向け、「読解力」の向上を図ることである。	・ 黒字と黒字率を「書く力」の向上を図ること。	・ 読書をひく習慣と黒字率の飛躍の確立を図り、「基礎能力」の向上を図る。

国語科研究テーマ
「書く力」「読解力」の向上を図る授業改善の工夫

各学年の具体策・実践		
第一学年	第二学年	第三学年
・ 内容や表現の読み取り学習を授業の中に多く取り入れ、読解の基礎をしながら「読解力」の定着を図る。	・ 黒字テストを継続して実施し、「書く力」をつける。 ・ 書く場面を多く授業に取り入れ「書く力」をつける	・ 読書を使った黒字や読解課題の時間を確保することにも、「書く力」をつける。

実践の視点	授業実践の中で	授業外の教育活動
基礎・基本の定着のための手立て	・ 単元プランに基づき、基礎・基本をおさめた授業を継続していく。	・ 読書と学習を兼ねて行う。
学習過程の工夫 学習意欲の充実	・ 理解度を確認しながら、すすめる。 ・ 書く場面を多く取り入れる。	・ 時間内に書けなかったものを継続して行う。
評価の在り方	・ 黒字テスト・書いてまとめる。	・ 黒字練習を行う。

《単元プラン様式と英語科の記入例》

第2学年 英語科 週案

単元名	Let's Read 2								
指導要目	【英語科の理解・表現】 ・ and stand (review) 等不可解... no good 「女の」表現 ・ should ・ can, have to, may (復習) ・ arrive at (文法表現)								
指導要目	【英語活動】 ・ 読む「the magazine」の読み取り ・ "No white" の色に関する表現 ・ 主語の省略の表現 ・ 疑問詞の活用								
指導要目	① マジックボックス (1) 1時間 (2) (3) (4) (5) ② アスタリッシュ テスト								
日	時	不明の目標・学習内容 (基礎的・基本的内容)	指導要目	指導要目	指導要目	指導要目	指導要目	指導要目	指導要目
20	1	・ 本単元は「読む」の単元である。読者の目にまつよう。	○	○	○	○	○	○	○
21	2	・ 本単元は「読む」の単元である。読者の目にまつよう。	○	○	○	○	○	○	○